

【令和4年度 授業改善推進プラン】

板橋区立高島第五小学校

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<p>【歌唱】パートの分かれる曲もハーモニーを崩さず歌うなど、全体的に歌唱は楽しんでいるが、個人差、学年差は大きい。また、マスク越しのため、口形、表情は把握しづらく、発音がはっきりしていない。無理な力の入らないファルセット唱法で歌えるが、音程が定まらない、不自然な体の揺れが気になる児童もいる。</p> <p>【器楽】リズム感が養われている児童が多く、合奏など崩れが少ない。ドラムサークルは個々に工夫をしたり、音色を楽しんだりしている。その他の管打楽器においても意欲的である。</p> <p>【鑑賞】わかったこと、感じたことを音色、楽器、構成、感情に分けて記入できる。が、それを元に全体をまとめられない。また言語表現そのものに厳しさを感じる児童もいる。</p>
<p>■指導についての課題</p>	<p>【歌唱】個々に応じた指導が必要。例えば、ファルセット唱法における安定した音の取り方、体重移動の要不要、曲想による変化に応じた発声の意識の定着が不十分。更に、学年に応じた歌詞の内容や情景に応じた感情表現について、更に向上を図っていく。</p> <p>【器楽】打楽器のリズムや奏法などの工夫の幅は、まだ余力がある。協働的な活動を通じて向上させる機会を持たせたい。管楽器に関しては基本姿勢の徹底、運指の繰り返し練習を徹底し達成感を味わわせていく必要がある。</p> <p>【鑑賞】基本的な知識と、発想力、想像力を更に広め、深めてく必要がある。</p>
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<p>演奏のできない期間が長くなるに従い、声や音に関する感性が低下している感は否めない。その点を認知しながら、指導を進めていく。</p> <p>【歌唱・器楽】会話や笑い合うことは日常的になっても、歌唱や演奏は非日常なので、羞恥心もあるように感じられる。特に歌唱に関しては、個々の自信と周りに対する意識の両方が必要なので、外に対する意識を強く持たせる。また、安心して演奏練習ができる雰囲気づくりをしていく。教室は失敗していい場所であるという意識を定着させ、成功体験を積み重ねて、自信をもたせることが必要である。</p> <p>【鑑賞】直感的に感じたことを言語表現しやすくするためには、短時間でも音楽を聴く機会が必要と思われる。そのために時間を捻出できるようにしていきたい。</p>